

編集委員会ニュース（第3号）

今年度から執筆がスタートしています。

昨年（令和6年）は6つの部会に分かれて調査・資料収集を中心に進め、全体構成表（アウトライン）を作成しました。これで「洗馬地区誌」の骨格が見えてきました。

この6月23日には編纂会新体制の面々をお招きし、編集委員会の全体会（方針大会）をしました。今年度はいよいよ執筆にとりかかり、刊行は4年後の令和11年3月を予定しています。

今後とも一層のご協力をお願いします。

○編纂会新体制（編集委員会の上部組織）

会長 石井達郎氏

事務局長 南山貴史氏（洗馬支所長）

顧問 清水英成氏（前編纂会会長）

全体構成表（アウトライン）
表紙候補と「章」を紹介します。

表紙

口絵

発刊の言葉（市長、編纂会長）

- 1章 洗馬のすがた
- 2章 洗馬のあけぼの
- 3章 高遠藩飛び地洗馬郷
- 4章 洗馬文化
- 5章 明治維新から今
- 6章 洗馬のすがた
- 7章 ふるさとづくり

年表

洗馬の人名

主な役職名

編集委員長の言葉

裏表紙写真



表紙の候補

妙義山と北アルプスを
背景とした洗馬の集落

編纂会・編集委員会の皆さん
（編集委員会全体会にて撮影）



章のピックアップ①

5章 明治維新から今

4項 自給自足と助け合い
＜サブタイトル＞
戦前までの暮らし

芦ノ田のある家で保管されていた大正・昭和初期の遺物—薪の炊飯器や糸繰り機など。それは当時の生活を知り、書き残す手がかりです。



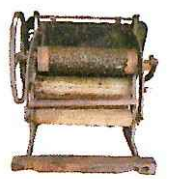
薪の炊飯器



炭火アイロン



糸繰り機



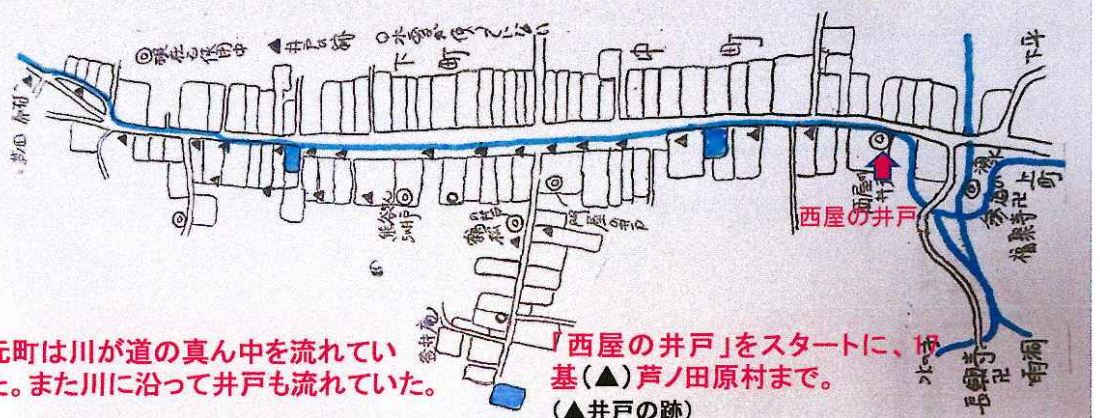
繭の毛取り機

章のピックアップ②

6章くらしといのり 2項 水とくらし「水道が通る前は、水をどうしていたずら？」



芦ノ田・山根の井戸



元町は川が道の真ん中を流れていた。また川に沿って井戸も流れていた。

「西屋の井戸」をスタートに、
基(▲)芦ノ田原村まで。

(▲井戸の跡)

今回は「あけぼの部会」を紹介



あけぼの部会は、縄文時代から中世までを担当しており、地区誌は「遺跡って何」から始まります。縄文時代の遺跡を中心にくらしぶりなど明らかにできればいいなと思っています。また古代・中世の洗馬の庄や三村氏と武田氏、小笠原氏との関係も調査しています。

メンバー(写真順) 古牧 廣 洞派信隆

中原文彦 熊谷康治(部会長) 上條伸一(副部会長)



上組、八幡宮北遺跡の現地調査

当部会では2回にわたって洗馬の各遺跡の現地調査を実施し、その範囲を推定しました。



新発見の遺跡 槻井泉神社北遺跡発掘
四角の堀跡が平安時代の竪穴住居跡です



小段遺跡採集の石棒

長さ 70 cm
径 20 cm
村の広場に立っていたものと思われます。

コラム

木造大日如来坐像(県宝、岩垂 真正寺)

写真は、金剛界大日如来坐像と言い、真正寺の御本尊様です。真正寺の本山は高野山金剛峯寺ですので、空海が開いた真言宗です。そしてこの仏像は鎌倉時代末(1301年)の作とされ、長野県の文化財(県宝)に指定されています。特徴は、智拳印という印を結び、冠や腕輪をしていることです。他の如来様(釈迦如来、阿弥陀如来など)は冠や腕輪



顔面把手付深鉢型土器

などの飾りは着けません。おしゃれな仏様ですね。

それからもう一つ洗馬には県宝があります。それは小段遺跡出土で縄文時代中期(5000年くらい前)の顔面把手付深鉢型土器です。現在は平出博物館に展示されています。



木造大日如来坐像 撮影:編集委員会 山崎豊

昔の洗馬の写真を探しています。(伊勢湾台風被害、コロナの感染対策、大雪ハウス潰れ)

問い合わせ 事務局 征矢野 泉 090-6527-3545